

④ 光秀と四王天家

福井藩士・四王天家は、元祖・政実が明智勢に属し、本能寺の変で信長の小姓・森蘭丸を討ち取ったとの由緒を持っています。

軍記物語『明智軍記』では政実が蘭丸を討ったとの記述があり、また読本『絵本太閤記』でも「十九歳大力無双の若者」である政実が本能寺の門扉を破壊する場面や両足を切り落とされた蘭丸の首を取る場面が登場します。

しかし、森家の子孫が編纂した『森家先代実録』では、政実が討ち取ったのは蘭丸ではなく、弟の力丸との記述も見られます。

明智滅亡後、政実は結城秀康に召し抱えられ、同家の歴代当主は九頭竜川の「舟橋役」として北陸道の要衝を管理しました。

*「四王天」と「政実」のヨミは『三百藩家臣人名事典』による



四王天但馬守事蹟碑(福井市舟橋町)